

令和6年度 第3回宇部市公共交通協議会 会議録

令和6年（2024年）10月2日（水） 10:00～11:20

場 所：宇部市総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール（大）

出席者：18名（欠席者4名）

榊原会長（国立大学法人山口大学大学院）

三戸副会長（宇部市自治会連合会）

大谷委員（宇部市交通局）

綿部委員（船木鉄道株式会社）

福嶋委員（宇部タクシー協会）

芳野委員（宇部山電タクシー株式会社）

秋野委員（宇部第一交通株式会社）

能登委員（西日本旅客鉄道株式会社）代理 飯島様

館委員（中国運輸局山口運輸支局）

上田委員（中国地方整備局山口河川国道事務所宇部国道維持出張所）

渡壁委員（山口県宇部土木建築事務所）

胡委員（山口県宇部警察署）代理 藤野様

尾上委員（山口県観光スポーツ文化庁交通政策課）代理 磯部様

佐々木委員（一般社団法人宇部観光コンベンション協会）

太田委員（宇部市地球温暖化対策ネットワーク）

齋藤委員（宇部商工会議所）

佐藤委員（社会福祉法人宇部市社会福祉協議会）

磯中委員（宇部市都市政策部）

事務局：4名

交通政策課 新原課長、和田副課長、松本係長、坂倉係員

次 第：1 会長あいさつ

2 議事

(1) 宇部市地域公共交通サービス水準調査・検討について

(2) 山口宇部空港国際線乗合タクシー運行支援事業

3 その他

・令和6年10月1日からの運行ダイヤについて（船木鉄道株）

・バス・タクシー運転士体験会&就業説明フェア開催概要

・路線バス運賃100円デー実施報告及び開催案内

1 会長あいさつ

2 議事

(1) 宇部市地域公共交通サービス水準調査・検討について

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

これは、宇部市独自の事業であり、この協議会事業として実施するものである。国の事業等であれば色々な条件を満たさなければならないなど制約が多いが、宇部市独自の事業であるので、ある意味宇部市の考えを反映させやすいと考えている。今はまだ検討が始まったばかりであるが、年度後半に向け事務局で作業を進めていくので、こういうところは忘れないでほしいであるとか、そういったご意見があれば、この場で発言していただきたい。ご意見等あれば伺いたい。

【委員】

調査対象は、宇部市交通局と船木鉄道の路線ということだが、くすのき号やデマンド交通、コミュニティタクシー等は対象になるか。

【事務局】

くすのき号については支線という形で今回の調査・検討にて進めていくこととなる。その他のデマンド交通、コミュニティタクシー等については地域内交通という形で考えており、この調査・検討では、主要幹線、幹線、支線についてサービス水準を定め、その後それを補完する形でどれくらいの地域内交通等があったらいいか検討していく形となる。

【会長】

今のご質問は、この調査・検討の大枠の話になるが、今回の調査・検討はいわゆる定時定路線タイプの水準を議論して、例えば理想と現実が求められた後、具体的な基盤を考えていく中で、地域内交通についても検討していくという流れとなる。

【事務局】

最終的に主要幹線、幹線、支線で需要がまかなえればよいが、まかなえていない路線等で需要があれば、地域内交通含め、カバーしていくこととなると考えている。

【会長】

当事者である宇部市交通局と船木鉄道では、この、市がやろうとしていることについて、気を付けてほしいことなど、ご意見を伺いたい。

【宇部市交通局】

運転士不足が問題となっている昨今、さらに在籍運転士の高齢化も進んでおり、かなり厳しい状況となることが予想される。その中で、例えば主要幹線であれば等間隔で高頻度ということが求められると思うが、運行時間帯を少し見直すとか、支線に関して、利用者が少ないところについてはデマンドバスやコミュニティタクシーに変えていかないと今後維持が困難になのではと懸念している。そのあたりを考慮していただきたい。

【船木鉄道】

今の宇部市交通局の意見と概ね同じではあるが、弊社も人員不足が深刻な問題とな

っており、この10月から路線を縮小して対応しているところである。船木から宇部中心部に向かう路線は主要幹線や幹線もかかってくると思われるが、今後の展開次第では、一部減便して宇部市交通局に任せ、逆に西部の方については弊社でカバーし維持していくというような調整が必要となってくるのではないだろうか。そういった議論をする余地は必要と考える。

【事務局】

今回のサービス水準の調査・検討については、今話のあった運転士不足等の要素も加味したうえでの検討を考えている。また、居住誘導区域や用途地域といった、宇部市の進めるまちづくりに交通政策がどのように寄与していくかというところで、最低限求められるサービス水準、支線を地域内交通でまかなう等といった考え方も明らかにしていかなければと考えている。また、運転士不足や利用者数が減っているといった状況がある中で、1時間に3～4本は主要幹線で必要ではないかといった品質保証の考え方等について、まちづくりに絡めながら便数等について定めていけたらと考えている。先ほど船木鉄道からお話のあった、宇部市交通局がまかなっていく路線であるとか、船木鉄道がまかなっていく路線であるといった詳細な検討については、このサービス水準を定めた後に議論を進めていけたらと考えている。

【会長】

今回のサービス水準の調査・検討については、主にバス事業者の路線等について議論を進めているが、その結果でタクシー事業者にも影響が出てくると考える。そのあたり、タクシー事業者はどのようにお考えか。

【タクシー協会】

今タクシー事業者を悩ませている問題がライドシェアである。もはや事業者で解決できる問題ではなく、定時定路線の主要幹線についてバスを中心に移動を確保していくのか、ライドシェアのようなもので一般市民の方で一種免許を持っている方に公共的的なものを担わせていくのかといった、国が考えるまちづくりの方向性がわからなくなっており困惑している。ライドシェアを重視するといった明確な方針が出れば、タクシー事業者も追随していかざるを得ない。そうはいっても、定時定路線を中心としたまちづくりを進めていくべきだと私たちは考えており、その中で我々タクシー事業者に何ができるかということを考える必要がある。ただし、定時定路線の水準が明確にならなければ、例えば深夜の時間帯の便数等によってはタクシー事業者が深夜にシフトすべきなのか、過疎地域でバスが減ったときには、コミュニティタクシー等でお手伝いできるのかといったようなことについて、事業計画を明確に立てられないという状況である。宇部のタクシー事業者は実はあまりライドシェアには乗り気ではない。というのも、一番大きなところが労務の問題で、先進的な大都市がライドシェアを取り入れているが、市の職員が業務時間外に運転をしているといった現状がある。そのほか運行できる時間など、ライドシェアの制度がまだはっきりしていないことから、山口県及び宇部市のタクシー事業者はあまり取り組んでいないという現状である。ライドシェアの検討がなされない中で、このサービス水準の検討をしたところで、タクシー事業者としてどこまで役割を担えるのかがわからないという現状である。

【会長】

国の動向については言えることではないが、個人的には定時定路線型というのは宇部市の人口規模の中では役割はあると思うし、全てなくなっていいという人口密度ではないと考える。そういった中で、先程居住誘導区域等の話があったが、市街地に近いところでもバス停から遠いところであったり、時間帯によっては交通空白となるところがある中で、そこをどうしていくかといったところは、このサービス水準を定めた次の段階で議論を進める必要があると思っている。そのあたりを考える中で、今のご意見は考えなければならないし、今年度すべて結論を出す必要はないとは思いますが、近い将来必ず直面する問題であるので、事務局はそのあたりも視野に入れて検討いただきたい。

JRについても幹線の一部を担うという位置付けになっているので、何かご意見等あればご発言いただきたい。

【JR西日本】

鉄道の役割としては、市外などへ移動する際の広域的な輸送を担う交通機関という位置づけになっている。

この地域においては、宇部線が山口県西部地域の玄関口である新山口駅と、宇部市の中心部を結ぶという役割がある一方、山口宇部空港へのアクセスの一部となっている側面もある。宇部市交通局のバスも新山口駅と山口宇部空港を結ぶ特急バスを走らせており、そのほか空港アクセスの関係で新山口駅から空港へ直行するタクシー等も計画されている。こういった交通事業者同士の重複があると考えており、また鉄道においてもバスほどではないが従事者不足等が問題となっていてきており、近い将来人不足となることが予想される中で、いつまで今の運行体系を維持できるかといった課題がある。限られた公共交通、交通資源をどのように配分していくかというところが近い将来課題になってくると考えている。そのような中で、鉄道とバス事業者で連携して、望ましい公共交通体系を維持していきたいと考えている。

【会長】

大量輸送ということでは、宇部市の現状では朝の通学で、今の状況だとバスだけで輸送をまかなうのは厳しく、その中で鉄道の担う役割は大きい。ただ、JRとしても宇部線が経営的に厳しいのは明らかで、その中で、今ご意見のあった公共交通機関の重複といった問題もいずれ議論が必要と思われる。

事業者から意見を伺ったが、ユーザー側からの意見も伺いたい。宇部市社会福祉協議会からご意見等あるか。

【宇部市社会福祉協議会】

地域の声を少し紹介したい。地域ではやはり移動支援について、自分たちで助け合いができたという声がずっと上がっている。ただ、なかなか難しい、進まない、声は上がっても実行には至っていないのが実情である。先ほどあったライドシェアについては、こういうものがあつたらいいな、やれるといいなとは思っているが、運行管理の面が難しいとか、同乗者の命を預けてもいいのかといった問題があり、実際になかなか動くことが難しい中、勉強会等行いながら少しずつ進めていきたいと考えているところである。また、北部といわれる地域では、新たな交通支援が入ることにつ

いて理解が追いついておらず、なかなか利用につながっていない、利用されて、便利さを実感された方はずっと使うが、時間が少しでも合わないと思ったらなかなか利用しない、運賃が高いなどといった理由から利用につながっていないというのが現状である。

【会長】

社会福祉協議会の方でも公共交通について問題意識を持って取り組まれているというのは伺っている。今回こういった基準をつくるところから、その後の具体化というところで、交通事業者はもちろんのこと社会福祉協議会やその他関心のある団体がおられると思うので、そういった中で取り組んでいけたらいいのではと思う。

個人的に考えていることをお話しすると、国土交通省の研究会で具体的に出されている目安について、宇部市の実情に合わせたものにしなければならない。具体的には、国の示された品質保証と性能保証の間がありすぎるので、宇部の実情を考えると、その間くらいがあるのではと思う。国がせっかく示されているものなので、検討のベースにするのはいいが、宇部の実情に合わせたものにするといいと思う。

また、事業者からは、こういったサービス水準を示すということで、絵に描いた餅ではと思われる方もいらっしゃるかもしれないが、一つは事業者間の協調が重要となる。バス事業者間やバスと鉄道、タクシー事業者間で今まで以上の協調を行っていかなければならないと思う。国もそういったところを検討しているので、次期の計画に活用できるとよいと思う。

新技術や、ライドシェア等の新しい制度についてはそういったものを活用していくのかどうか、出口を意識しながらサービス水準について取りまとめていただけたらと思う。

今後また、協議会にて諮ることや、報告があるかと思うが、引き続きよろしくお願いします。

(2) 山口宇部空港国際線乗合タクシー運行支援事業

事務局及び山口県交通政策課から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

確認だが、この事業は宇部市と山口市でそれぞれ承認が必要という認識でよいか。

【事務局】

その通りです。

【会長】

ご意見等ある方はお話しいただきたい。

なければ、私から数点確認したい。チャーター便で移動される方の動きについて詳細に把握しているわけではないが、基本的には団体での移動が多いものと考えているが、山口県として、この乗合タクシーの需要の見込みをどのように考えているか。

【山口県】

チャーター便については、各旅行会社がチャーター便の席を買い取るという形で、団体旅行という形での貸切バス等での運行が中心となってくる。県としては定期便を

目指し、団体での貸切バスでの移動だけでなく、FITといわれる個人旅行者についてもターゲットにしていきたいと考えている。その中で、宇部空港での二次交通の周知をしていきたいと考えており、需要を高めていけるように周知を図り、更なる需要の拡大につなげたいと考えている。

【会長】

周知という部分では、今回は専用サイトでの予約ということになっているが、国外の方についてはなかなか誘導が難しいのではと思うが、そのあたりどのようにお考えか。

【山口県】

周知の方法としては、韓国・台湾の各旅行会社がチャーター便の席を買い取り、それを各旅行会社のサイトで販売するという流れであり、そのサイト内でこちらの事業の説明やサイトを周知していく方法を考えている。

【会長】

その他何かご意見等ないか。

【委員】

この事業に限った話ではないが、空港アクセスについて申し上げると、山口市等から宇部空港に向かうこのような交通モードがいくつかあるが、鉄道を利用した場合、草江駅が最寄りということになる。現在草江駅で下車した場合、空港まで約10分ほど歩くことになるが、専用の歩道があるわけでもないのだからわかりにくいといった意見もある。このような、道路を使った公共交通が、草江駅で停車することができれば、鉄道で来られたお客様を乗せ、空港にお連れすると言った新しい使い方もできると思うので、将来的な空港への交通手段の確保ということで、是非検討してほしい。

【会長】

今の話は草江駅と山口宇部空港を結ぶ交通手段という認識でよいのか。

【委員】

そのとおり。草江駅と宇部空港を単独で結ぶ交通機関があれば良いが、それでは非効率となる部分もあると思うので、このように、他の地域から空港へ向かう途中で草江駅で停車し、鉄道で来られたお客様を乗せ、空港まで向かうといったものがあれば、鉄道でのアクセスの利便性も向上するのではと考えている。

【会長】

その他、ご意見等ないか。

【宇部警察署】

ジャンボタクシーが空港のバス停と、新山口駅のバス停に停車するとなると、公安委員会への届けが必要になると思われるので、そのあたりは後日クリアしていただきたい。

【山口県】

承知した。

【委員】

予約制ということで、予約がなければ運行しないという認識でよいのか。

【山口県】

その通りです。

【委員】

この事業は県の補助事業か、事業者単独での事業となるか。

【山口県】

振興会の補助事業という形である。

【委員】

料金についてはどのように決められたのか。

【山口県】

空港連絡バスの運賃が910円で運行しているということで、それと近い額ということで、1,000円としている。

【委員】

タクシー運賃との比較はされてないか。タクシーだと6～7,000円程度かかってくると思うが。

【山口県】

国際線については、国内線の運行時間以外のところで離発着されるため、空港連絡バスとの接続がないといったところを意識した事業である。

【委員】

以前は山口県や山口市から、新山口駅だけでなく山口市街まで運行してほしい旨の要望を受けていたが、採算を考えると困難であると回答してきた。山口県では、直接湯田温泉等への運行は考えなかったのか。

【山口県】

一定の需要があると考えており、そういった運行も検討したが、県としては新山口駅が交通の結節点であることから、そこから県内への移動をしていただきたいと考え、新山口駅－山口宇部空港間とした。

【会長】

現時点では今年度内の時限付きの実証実験ということであるが、今後本格運行となる場合や、国際線が定期便となるようなことになれば、交通局からの意見も議論していく必要があると考える。

この事業について、承認としてよろしいか。

ご意見ないので承認とさせていただきます。

この件の承認を前提として、今いくつかご意見があったのはおっしゃるとおりであり、山口宇部空港は県が管理しているもので、県にもしっかりと考えていただきたいと思うが、色々な空港へのアクセス手段がある中で、どちらかというと観光振興の観点で過去に実証実験を行ってきたが、継続的なものが少ない。県として一番の玄関口である山口宇部空港から県内へのアクセスをどのような体系で作っていかうという、一つのビジョンが必要であり、そのような中で個別のサービスが出てくるのだと思う。その中では交通局のバスも大事であり、宇部線をどう位置づけるのか、フライトとJRのダイヤを合わせるのは難しいとは思いますが、今後空港へのアクセスをどうしていくのかといったビジョンを示していただけるとよいと考える。

3 その他

- ・令和6年10月1日からの運行ダイヤについて（船木鉄道㈱）
事務局及び船木鉄道から、資料について報告を行った。
- ・バス・タクシー運転士体験会&就業説明フェア開催概要
事務局から、資料について報告を行った。
- ・路線バス運賃100円デー実施報告及び開催案内
事務局から、資料について報告を行った。
意見等については、以下のとおり。

【会長】

報告事項の一つ目については、前回の協議会内でも議論を行っていただいた。運転士不足等が課題となっており、10月1日よりダイヤを変更しているという報告である。

二つ目の報告は、その運転士不足に対する取り組みで、7市町での取組ということで、ばらばらに行うより連携し広域で行うという取り組みは、より効果が出ると思われる、非常に良い取り組みと思う。

三つ目の報告は、運賃100円デーについてであり、期間中の土曜日にバスに乗車したが、多くの方が利用されていたと感じた。土曜日はフジグランで交通局がイベントを実施しており、日曜日は中心市街地でイベントを行っていたが、そういったところに人を呼び込む手段として、公共交通の利用促進にとどまらず、まちづくりの手段としての施策でもあると思うので、効果を引き続き評価していただきたい。

何かご意見等あれば伺いたい。

【委員】

船木鉄道のダイヤ改正について、要望になるが、ダイヤ改正や減便は同じバス事業者として理解できるが、今回の改正ダイヤについて、H27年網形成計画策定の際に等間隔運行を意識してダイヤ編成を行った。それが、今回のダイヤ改正で、3分違いで同じ方向に向かう便ができてしまっており、お客様の利便性がかなり落ちてしまう。そういったところに配慮していただきたい。

【会長】

H27年の網形成計画の際に、主要幹線はなるべく等間隔で運行するというのが示されており、現在の公共交通計画でも、そのように示されていると認識している。現状は事業者間で調整されており、その自主的な調整でうまくいけばよいが、難しいということであれば、共同経営というのも選択肢となるか。せつかく国が制度を整備しているので、事務局含め、考えていただくとよいかと思う。

その他ご意見等ないか。

【委員】

一件ご報告させていただきたい。この度宇部市交通局で完全キャッシュレスバスの実証運行について国から選定された。バス事業者の経営改善効果が期待できることと、

運転士の負担軽減につながるということで、8月に公募があり、全国で18事業者が採択された。宇部空港線（新山口駅－山口宇部空港間）でキャッシュレス決裁を実施する。期間は11月1日から2月28日まで。車内での取り扱いはICカードとデジタルチケット等となる。期間中現金が使用できないことについて周知を行うが、それでも乗車拒否等を行わず、キャッシュレスが困難な乗客については現金でも対応する。完全キャッシュレス化となれば、運賃箱は不要となり、新札対応なども行わずに済み、また、運転士の負担軽減にもつながるということで、事業者にとってメリットが大きい。11月から実証運行を行うので、よろしくをお願いしたい。

【会長】

周知を十分に行っていただきたい。宇部市だけでなく山口市等でも十分に周知をお願いする。

以上